



浅野川中学校だより

あさのがわ通信



第24号

令和7年6月25日発行

金沢市立浅野川中学校

Email asanogawa-j@kanazawa-city.ed.jp

学校ホームページURL

<https://kanazawa.schoolweb.ne.jp/1720013>

* 学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

平和の詩「おばあちゃんの歌」

沖縄は、昨日23日（火）に戦後80年の「慰霊の日」を迎えました。沖縄戦最後の激戦地となった糸満市摩文仁の県平和祈念公園では、沖縄全戦没者追悼式が行われ、地上戦を生き延びた体験者の孫が平和の詩を朗読しました。85歳の祖母が一年に一度だけ、歌うという「おばあちゃんの歌」の意味を知ったときの思いをつづり「命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさない」と宣言しました。生徒のみなさんにぜひ読んでいただきたいので、全文を掲載します。

平和の詩「おばあちゃんの歌」

豊見城市立伊良波小学校6年 城間 一步輝

毎年、ぼくと弟は慰霊の日
おばあちゃんの家に行って
仏壇に手を合わせウートーをする

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「空しゅう警報聞こえてきたら
今はぼくたち小さいから
大人の言うことよく聞いて
あわてないで さわがないで 落ち着いて
入って いましよう防空壕」
五歳の時に習ったのに
八十年後の今でも覚えている
笑顔で歌っているから
楽しい歌だと思っていた
ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない
ビデオの中のぼくはあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「うんじゅん わんにん 艦砲ぬ くえーぬくさー」
泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かった
歌った後に
「あの戦の時に死んでおけば良かった」
と言うからぼくも泣きなくなった
沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った人のことを
「艦砲射撃の食べ残し」
と言うことを知って悲しくなった
おばあちゃんの家族は
戦争が終わっていることも知らず
防空壕に隠れていた

戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが
戦車でひき殺されると思い出で行かなかった
手榴弾を壕の中に投げられ
おばあちゃんは左の太ももに大けがをした
うじがわいて何度も皮がはがれるから
アメリカ軍の病院で
けがをしていない右の太ももの皮をはいで
皮ふ移植をして何とか助かった
でも、大きな傷あとが残った
傷のことを誰にも言えず
先生に叱られても
傷が見える体育着に着替えることが出来ず
学生時代は苦しんでいた

五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い
「艦砲射撃の食べ残し」と言われても
生きてくれて本当に良かったと思った
おばあちゃんに
生きていてくれて本当にありがとと伝えようと
両手でぼくのほっぺをさわって
「生き延びたくとう ぬちぬ ちるがたん」
生き延びたから 命がつながったんだね
とおばあちゃんが言った

八十年前の戦争で
おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った
その傷は何十年経っても消えない
人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく
おばあちゃんが繋いでくれた命を大切に
一生懸命に生きていく

世界においては、依然として地域紛争は絶えることがありません。1日でも早く、1人でも犠牲者が少なく争いが終わってほしいと願わずにはいられません。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」（ユネスコ憲章の前文より抜粋）生徒のみなさん、この詩から何を感じましたか。

陸上競技は、今週末に県体！

陸上競技は一足早く、28日（土）、29日（日）に石川県西部緑地公園陸上競技場で「県体」が行われます。県体に出場する男女陸上部のみなさん、自己ベスト、標準記録突破を目指して頑張ってください！健闘を祈ります！

